



フィリオ 30 (サティール) の高い安全性と強い除菌力を使った

## 歯科医院での“嘔吐物の対策”について

① フィリオ 30 原液 0.05% (500ppm) 弱酸性は、5% (5万 ppm) 次亜塩素酸ナトリウムと、  
ほぼ同等の除菌効果が発揮されます — 第三者県機関試験結果より—

② フィリオ 30※5倍希釈 (0.01%) でも

※0.1%(1,000ppm)次亜塩素酸ナトリウムを上回る除菌効果も発揮されます。

— 第三者県機関試験結果より—

※老人福祉施設や学校などと異なり、歯科医院では、印象採得という特殊なケースがあります。

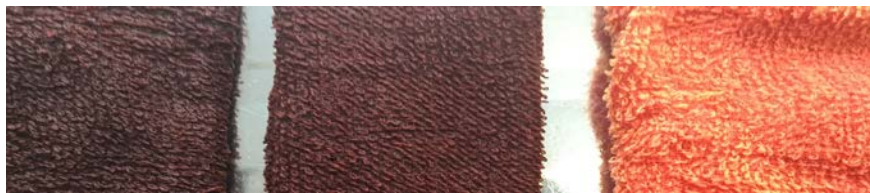
歯科医院での嘔吐は、この印象を採る時に患者様が嘔吐してしまう場合も稀にあると聞きます。

このような場合、

塩素系漂白剤を使用した場合、消毒が出来きたとしても、ユニットの漂白や腐食は避けたい。又、

白衣に嘔吐物が付着した場合も漂白等の課題があり、非常に困難である事もお伺いします。

そういった困難なケースを考えて、歯科医院に限定した 嘔吐物の対策となります。



未使用

フィリオ 30 5倍希釈

0.1%次亜塩素酸ナトリウム

※1時間

※5分後

<参考使用例>

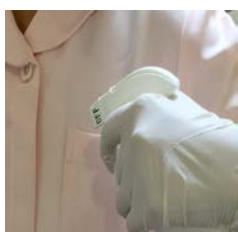
1、フィリオ 30 原液を浸みこませたペーパータオル等で、まずは、嘔吐物を

速やかに、処理します。(ビニール袋の入れて廃棄) (※いきなりスプレー噴霧は避けます。飛散させない為



2、吐物処理後、周辺等 スプレー噴霧又は、拭き取ります。

※嘔吐物の場合、通常のユニットの衛生管理以上に、入念に清掃した方がよいと考えます。



白衣スプレー



周辺の空間除菌



ドアノブ他



ユニット

## 混合による W 効果

### 嘔吐物が付着したエプロン等 >

嘔吐物を拭き取りした後、洗濯機等で洗濯する前に

フィリオ 30 (サーティ) にロータスクイーンの混合

フィリオ原液であれば 1分~5分 浸漬⇒ 十分に水で流す

々 5倍希釈であれば 10分以上 浸漬⇒ 十分に水で流す

### スピットンの嘔吐物

①フィリオ 30 原液を含ませた ペーパータオル等で まず嘔吐物进行处理します  
《処置した吐物はビニールに入れ、破棄します》

※嘔吐物の場合は、いきなりフィリオ 30 でスプレー噴霧は避けます

※飛散をさせない為

②吐物の処理後に、スピットンにロータスクイーン⇒フィリオ 30 で清掃



※ロータスクイーンを混合すると

“フィリオ 30 の次亜の力”と“ロータスクイーンのナノ洗浄”が同時に働き、より効果を発揮させます。

時間的な余裕があれば フィリオ 30 にロータスクイーン混合した方がよいと思います。

混合するロータスクイーンは、“この希釈でなければ?”という濃度は特にありません。100倍希釈でも200倍でも洗浄効果は十分に発揮されます。それよりも、嘔吐物処理は“速やかに”を第一としてください。

< 歯科医院で、よくある質問 >

歯科医院では、嘔吐物が腕に万一付着してしまった場合

どのように対処すればいいか?

フィリオ 30 は弱酸性で原液でも。直接肌に触れても安全です。

2倍希釈以下の濃度ではパッチテストによる安全テストはクリアしています。

この場合に限り、あくまでも

緊急の対処として、腕等にフィリオ 30 の原液又は2倍希釈で、直接スプレーして拭き取る事は可能です。

但し、フィリオ 30 は、手指の消毒剤では

ありませんので通常の手消毒は、手指消毒剤をお使いください。